

種子を支配する多国籍企業

1998.6.25 久野

1. なぜ種子なのか？

農業における「種子」の位置

種子商品化の歴史

自給的生産手段から購入生産手段へ

タネの商品化から遺伝情報の商品化へ

種子事業の担い手・・・個から公、公から私への転換と、公私間分業

なぜ種子事業に企業利益を見いだしたのか？

ハイブリッド化とアグリビジネス戦略

2. タネから遺伝資源へ

種子市場における経済主体は誰か？

バイオテクノロジーと多国籍企業の戦略

遺伝子組み換え作物・・・作物と品種特性の偏り

急速に拡大する作付面積

除草剤耐性や病虫害抵抗性はデファクト・スタンダード？

今後の展開方向・・・機能性作物の開発による垂直的インテグレーション

3. 多国籍企業のアグリビジネス戦略

1980年代末～90年代：農業と農産物貿易におけるドラスティックな変化

農業保護体制や国際農業調整の枠組みが転換されるに至った背景

1980年代の世界的な農産物需給緩和と世界農産物貿易の拡大

アグリビジネスの多国籍的展開

先進国農業の構造変化

アグロフード・システムの実際

多国籍アグリビジネスによる農業生産の包摂と地球的規模での食料調達体制

4. 農業者・消費者へのインパクト

種苗事業に付随する営農支援機能のビジネス化

遺伝子組み換え作物に関する栽培契約について

安全性と商品選択の問題

5. 多国籍企業の民主的規制のために

生物多様性と農業

科学技術をどのように評価するか

多国籍企業規制のための国際的枠組み

WTO・多国籍企業体制への対抗軸をどこに見いだすのか